

バーゼル銀行監督委員会「内部管理体制の評価のためのフレームワーク」の公表について

バーゼル銀行監督委員会（以下、バーゼル委と略称）は、今般、「内部管理体制の評価のためのフレームワーク（“Framework for the Evaluation of Internal Control Systems”）」の草案を公表し、市中協議に付した。

本ペーパーは、非G10諸国も含めた世界各国の銀行監督当局を対象に、当局が市中銀行の内部管理体制を評価する際の諸原則を整理したものである。これらの諸原則は、基本的な考え方を提示したものであり、厳格な遵守を義務づけているものではないが、バーゼル委のメンバーの間では、「監督に際して活用されるべきである」という点で認識が一致している。

バーゼル委では、近年の金融取引の高度化・複雑化のなかで、内部管理の重要性に着目し、この問題についての検討を深めてきている。その一環として、内部管理に起因する損失事例の検証を含めて、実務経験に根ざしたアプローチで本ペーパーの作成に当たってきた。今般、草案を公表し、各国監督当局、市中銀行、他の関係諸団体を対象に協議を行い、広くコメント（期限：3月30日）を求めることとなった。

本ペーパー（原文29ページ、仮訳35ページ）は、①内部管理のための経営陣の役割と責任、

②内部管理のプロセス（リスク評価、相互牽制、報告体制などのあり方）、③外部監査人の役割と責任、等の項目に区分したうえで、基本となる原則（principles、計14）を示しつつ、内部管理上のポイントを整理している。また、補論には、各国当局からの報告をもとに内部管理の不備に起因した過去の不祥事から得られた銀行監督上の教訓も示されている。

本ペーパーの構成と主な特徴点は以下のとおり。

（本ペーパーの構成）

I. 背景

II. 内部管理のフレームワークの目的と役割

III. 内部管理プロセスの主要素

A. 経営陣による監視と管理重視の企業風土

1. 取締役会

2. 上級管理職

3. 管理重視の企業風土

B. リスク評価

C. 管理業務

D. 情報とコミュニケーション

E. モニタリング

（注）全文の仮訳はインターネット上の日銀のホームページに掲載されています。

IV. 監督当局による内部管理体制の評価

V. 外部監査人の役割と責任

(補論) 内部管理の不備事例から得られた監督上の教訓

(特徴点)

(1) リスクの識別、評価、管理、報告、モニタリングの順に内部管理のプロセスに沿って整理。

——信用リスク、事務リスクなどリスク・カテゴリー別の整理とは異なった切り口。

(2) 職業倫理観を涵養し、内部管理を重視する企業風土 (control culture) を醸成することの重要性を強調。

——職員全員に内部管理を重視する認識が根付いていなければ、効果的な内部管理は望めないとし、職業倫理観、企業風土の醸成を内部管

理上の不可欠な基本要件と位置付けている。

(3) 内部管理についての外部監査人の役割と責任にも言及。

——外部監査人と銀行監督当局の関係は国によって違いがあるとの認識を踏まえつつ、「外部監査人は銀行の内部管理プロセスを理解し、銀行に内在する重大な弱点を識別することが期待されている」とし、外部監査人が果たすことの出来る役割にも言及。

本ペーパーは、わが国の金融機関にとっても、内部管理体制をより多角的にチェックしていくうえでの一助になると考えられる。

バーゼル委による本ペーパーについてのプレス・ステートメントの仮訳は以下のとおり。

プレス・ステートメント

銀行におけるリスク管理水準の向上を目指した継続的な作業の一環として、バーゼル銀行監督委員会は、本日、「内部管理体制の評価のためのフレームワーク」と題したペーパーを公表する。本ペーパーでは、健全な内部管理体制に必要な要素について記載しているほか、銀行監督当局が銀行の内部管理を評価するうえで利用するための14の原則を定めている。

本ペーパーは、世界各国の監督当局、銀行、その他の関係団体に配付し、1998年3月30日ま

でコメントを募集する。

本ペーパーのテキストは、1月19日より、インターネット上のBIS Web Siteの<http://www.bis.org>、各国監督当局、ないしは国際決済銀行にあるバーゼル委員会事務局から入手することができる。

バーゼル

1998年1月19日

(考査局、信用機構局)